テキスト　単元5 「心を動かすには」

項目1、「心を動かすことの重要性」

聞き手が、話題の中心人物に気持ちを引き寄せられ、まるで自分がその人になったかのように感情が動くことがある。このように聞き手の気持ちを動かすことを「心を動かす」または「共感を呼ぶ」という。次のような効果がある。

(1)聞き手の興味が増大し、持続する。　（どうなるのだろう）
(2)話の印象を強め、忘れがたいものにする。　（感動は過去形にならない）
(3)話の説得力を強める。　（なるほどそういうことか）

１、なぜ、心を動かすことが重要か

（１） 学習のねらい

これまで、大勢の前での話すことの大切さ、スピーチの構成、例の生かし方を学び、前回は表現の仕方を学んできました。今回は「心を動かすには」を学んでいきます。

皆さんはこれまで、心を動かされたことはありませんか。古い話で恐縮ですが、例えば NHK の朝ドラの「おしんの別れの場」は多くの人に感動を与え、心を動かされましたが、如何でしょうか。

今日は、このような人が感動することについて、人の心の動きの内面や、何故、大勢の前では、心を動かす必要があるのか等を学んでいきます。

（２）人は感情と理性で聞いている

話を聞くとき人は、感情が約８０％。理性が約２０％で聞いているといわれています。そして、感情は主に喜怒哀楽や好悪による「心が動かされたという内容」をつかみ取っています。理性の方は、主題の深さを聞き取っています。

（３）人は感動する話を聞きたがっている

人は心を豊かにすると自分の人生も豊かになると考えています。このために、自分が豊かになれる話を聞きたいという欲望を持っています。ですから、話の内容を十分練って、感動する話をすることが大切です。

次は、ある調査による分析例です。

①やる気、前向きな思考を育てる。
②自主性・自律性を奮い出すきっかけになる。
③視野の拡大、新しい価値観の獲得などのきっかけとなる。
④他者からの愛や慈悲をきっかけに人間愛や寛容、利他意識に目覚める。

（４）大勢の前で心を動かす話が必要なもう一つの理由

「大勢の人は、十人十色ですから、自分の思う通りに聞いてもらうには、聞き手に感動を与え、心に残る話をする必要あるからです」　ここが大事です。例えば「おしん」は、世界 68 カ国で放送され共感を受けました。人の心の根は地域や老若男女、貧富の差などを問わない普遍性があるからでしょう。ですから、より多くの人に感動を与えられるのでしょう。

（５）以上のまとめ
人の心を動かさないと、心に残らない。我が身に置き換えたり、想像したりして共感し、あるいは、共感をよぶ。すると上記テキストの三つの効果が得られます。

２，テキストの用語の意味

（１）＜喜怒哀楽や好悪＞
　喜怒哀楽＝人間の持つさまざまな感情。喜び、怒り、悲しみ、楽しみの四つの情のこと。（新明解辞典）　好悪＝好き嫌い。
例えば、愛で心が一杯になる。感謝で心が温まる。感涙などで心にしみる。心を奪われる（きれい、雄大）。胸を打つ。心が躍る（共感、期待、ドキドキ）満足感などで歓喜する。目からうろこ（新発見）。心をわしづかみにする。やりきれない。ぞっとしてパニックになる等（ＮＨＫ放送技術研究所資料抜粋）

（２）＜共感＞
他者と喜怒哀楽の感情を共有すること。もしくはその感情。例えば、友人が辛い表情をしているとき、その相手が「辛い思いをしているのだ」ということが分かるだけでなく、自分も辛い感情を持つこと。

（３）＜感情移入＞
他人の言葉や表情をもとにその感情や態度を追体験すること（共感）（大辞林
例えば、あたかも自分がそのストーリーの中に生きているように思えること。

３、スピーチの事例研究

私は、かって、話し方教室でこの話をお聞きして感動しました。今日はこの話を事例にして、心を動かすことの効果を考えていきたいと思います。

このスピーチは、2,013 年 9 月 8 日、日本中が歓喜した東京五輪誘致を勝ち取ったことの大きな要因となったといわれる「佐藤）真海（まみ）選手」のプレゼンです。

＜スピーチの概略＞約 4 分間の英語によるスピーチです。自身が 19 歳の時、骨肉腫で右足の膝下を失ったこと、一度は絶望の淵に沈んだが、スポーツ・陸上競技によって救われたことなどが前半で語られ, 後半では宮城県気仙沼で暮らす自分の家族が東日本大震災で被災したつらい経験と被災地の復興支援にスポーツが果たした役割について IOC 委員と世界の人々に伝えたものです。

＜スピーチの内容＞

　会長そして IOC の委員の皆様　佐藤　真（まみ）海です。
私がここにいるのは、スポーツによって救われたからです。スポーツは私に人生で大切な価値を教えてくれました。それは、2020 年東京大会が世界に広めようと決意している価値です。本日はそのグローバルなビジョンについてご説明いたします。
19 歳の時に私の人生は一変しました。私は陸上選手で、水泳もしていました。また、チアリーダーでもありました。そして、初めて足首に痛みを感じてからたった数週間のうちに、骨肉種により足を失ってしまいました。

＜状況設定＞まず冒頭できっかけとなる事件を描く。５Ｗ２Ｈで。出来るだけ短く簡潔に。ダラダラに注意。聞き手の集中力が途切れてしまうから。
（１）聞き手の興味が増大し、持続する。　（どうなるのだろう）
すごい切り出しです。聞き手は、一体どういうことなのだろうか？　これからどうなるのだろう？　話に心が集中します。

もちろん、それは過酷なことで、絶望の淵に沈みました。でもそれは大学に戻り、陸上に取り組むまでのことでした。
私は目標を決め、それを越えることに喜びを感じ、新しい自信が生まれました。そして何より、私にとって大切なのは…私が持っているものであって、私が失ったものではないということを学びました。
私はアテネと北京のパラリンピック大会に出場しました。スポーツの力に感動させられた私は、恵まれていると感じました。2012 年ロンドン大会も楽しみにしていました。
しかし、2011 年 3 月 11 日、津波が私の故郷の町を襲いました。
6 日もの間、私は自分の家族がまだ無事でいるかどうかわかりませんでした。

そして家族を見つけ出したとき、自分の個人的な幸せなど、国民の深い悲しみとは比べものにもなりませんでした。

＜葛藤＞どんな困難に直面したか。どんな葛藤があったか。その克服のために何をしたか。そこで何を思い、感じたかがありありと描かれています。聞き手の心が掻き立てられます。そして何より大切なことは、私が持っているものであって、失ったものではないということを学びました。

（２）話の印象を強め、忘れがたいものにする　（感動は過去形にならない）

ここまで聞いてきた聴衆は主人公の心の痛み、決意がしっかり印象深くきざみこまれ、忘れがたい強い印象が残っています。

私はいろいろな学校からメッセージを集めて故郷に持ち帰り…私自身の経験を人々に話しました。食糧も持って行きました。ほかのアスリートたちも同じことをしました。私達はいっしょになってスポーツ活動を準備して、自信を取り戻すお手伝いをしました。
そのとき初めて、私はスポーツの真の力を目の当たりにしたのです。
新たな夢と笑顔を育む力。希望をもたらす力。人々を結びつける力。200 人を超えるアスリートたちが、日本そして世界から、被災地におよそ 1,000 回も足を運びながら 50,000 人以上の子どもたちをインスパイアしています。

私達が目にしたものは、かつて日本ではみられなかったオリンピックの価値が及ぼす力です。そして、日本が目の当たりにしたのは、これらの貴重な価値…卓越、友情、尊敬…が、言葉以上の大きな力をもつということです。　以上

＜解決＞ストーリーの締めくくりはどのように解決したかを描く。何が解決の糸口になったか。それにどう対処して決着に至ったか等に触れる。困難を乗り越えて希望をつかんだ様子が生き生きと描かれています。

＜教訓＞ストリーの後に、どんな教訓を学んだかをまとめる。そのうえで，届けたいメッセージを伝える。一番大事なところです。この経験を通じて何を学んだか。繰り返し自問自答しながら、深い学びを引き出すことが肝要です。

（３）話の説得力を強める　（なるほどそういうことか）

スポーツの力は未来に向かう全ての人々の力になり得る。弱さと向き合ってきた人間として諦めずに限界を突破しようと前向きに生きている自分の人生をさらけ出し、IOC と世界の人々に届けた。
一人のパラリンピアンが伝えたスポーツの力は、新たな夢と笑顔を育む力、希望の力を人々に引き寄せた。それは佐藤選手が懸命に生きて来た強さが込められていたからに違いない。
聴衆の心を動かしてこそ、説得力を強めることができるのです。

４、「心を動かすスピーチには構造がある」

（参考文献「思いが伝わる、心が動くスピーチの教科書　佐々木　繁範　著」

１、ストーリー（物語）の不思議な力

① 主人公になったような感情移入。疑似体験をする。心が揺さぶられ記憶に残る。
② 実際に起きたこと、感じたこと、考えたことを、素直に語ることで話し手の人となりが伝わるため、信頼できる人物かどうかの判断材料を届けることが可能となる。

２、心を揺さぶり、信頼を感じさせ、効果的に伝えるにはどうすればよいか。

① 状況設定、葛藤、解決、教訓　という流れで語る。
② 情景と心理をありありと描写する。映像が映し出されるように。細部までリアルに。葛藤の場面では心のつぶやきをそのまま描く。
（例）「ああ、もう駄目かと思った」
③ 思い切った「自己開示」を行う。上手くいったことだけでなく、成功までの困難や葛藤を包み隠さず打ち明ける。聞き手は、話し手は生身の人間であり、自分の弱さを認める勇気を持つ素直な人間であることを感じとる。このことが話し手に対する信頼感につながる。

３、まとめ

これら三つの要素を兼ね備えたストーリーは、心に響きます。
①これまでも、佐藤選手だけでなく多くの人々が感動させたスピーチは「体験談」というストリーで語られています。
（例）スティーブ・ジョブズの伝説のスピーチ。（人生で学んだ三つの話）

② 経験談というストーリには不思議な力があるようです。
他人には決して真似のできない独自の世界で、ただ一つの経験談を語ることです。すべての人が自分らしさを活かした最高のスピーチを行うことができるのです。　以上